

完了後の評価個表

整理番号	9
------	---

事業名	森林環境保全整備事業	都道府県	富山県
地域（地区）名	しょうがわ 庄川	事業実施主体	県、市、森林組合等
関係市町村	たかおか 高岡市ほか5市	管理主体	県、市、森林組合等
事業実施期間	H23年度～H30年度（8年間）	完了後経過年数	5年

事業の概要・目的	本地区は、富山県西部に位置し、総面積の約56%にあたる83千haが森林であり、そのうち74千haが民有林、人工林は25千ha（人工林率34%）となっている。人工林の齢級構成は、12齢級をピークに10齢級以上の森林が8割を占め森林資源の充実が進む一方、6割の森林は間伐が必要な4～12齢級であり、増大する利用可能な資源の活用と適正な管理が必要となっている。 このため本地区では、資源の循環利用を促進しつつ、水源涵養や土砂流出防止等といった森林の有する公益的機能の維持増進を図ることが求められており、関係市が策定する森林整備計画等に基づく、主伐後の植栽や間伐等の適時適確な森林施業により、健全な森林の育成に取り組んでいる。 しかしながら、近年の林業採算性の低下や山村地域の過疎化による林業従事者の減少、不在村森林所有者の増加により集約化が進まないことなどを要因として、必要な森林施業が遅れ、森林の有する公益的機能の発揮に支障をきたすおそれがある。 このため、本事業では、森林資源の循環利用と森林の有する公益的機能の持続的な発揮のため、施業の集約化・機械化による効率化を図りつつ、主伐後の植栽や間伐等の森林施業を計画的に実施するとともに、これらの効率的な推進及び木材の安定供給の確保に資する路網整備を実施したものである。 ・主な事業内容 森林整備 5,160ha 人工造林、下刈り、除伐、間伐、更新伐等 路網整備 1,287m 林道開設 ・総事業費 2,585,369千円（税抜き2,417,390千円） （平成22年度の評価時点 1,376,093千円）
----------	---

① 費用便益分析の算定基礎となった要因の変化	令和6年度時点における費用便益分析の結果は以下のとおりである。 なお、事前評価で算出した総便益及び総費用と完了後の評価で算出した総便益及び総費用の差異については、費用便益分析で使用する単価の変化や労務単価の上昇、優先度の高い箇所から実行したことに伴う事業量の変動等によるものである。
------------------------	---

	総便益（Ｂ）56,322,782 千円（平成 22 年度の評価時点 31,569,888 千円） 総費用（Ｃ） 9,433,554 千円（平成 22 年度の評価時点 2,703,506 千円） 分析効果（Ｂ／Ｃ）5.97（平成 22 年度の評価時点 11.67）
② 事業効果の発現状況	・人工造林や間伐等 5,160ha の森林が整備され、水源涵養や山地保全等の森林の有する公益的機能の維持増進が図られた。また、路網の整備や高性能林業機械の使用等により効率的な作業が行われ、木材が安定的に供給された。 ・林道が 1,287m 整備され、車両が通行可能となったことにより、森林整備事業利用区域までの資材運搬等が容易となった。また、大型車両による木材運搬が可能となり、木材生産経費の縮減が図られた。 ・森林整備、路網整備事業の発注により雇用の場が提供され、地域の社会経済に貢献した。
③ 事業により整備された施設の管理状況	・整備された森林は、森林経営計画等により継続して適切に管理しており、良好な管理状況である。 ・整備された路網は、適切に維持・管理しており、森林施業の際には、草刈りが行われており、維持管理状況は良好である。
④ 事業実施による環境の変化	森林整備の実施により良好な森林が形成され、水源涵養や山地保全、木材の安定供給等といった森林の有する多面的機能が発揮されている。
⑤ 社会経済情勢の変化	路網の整備・連結によって高性能林業機械作業システム等の導入が促進され、効率的・効果的な森林施業が実施可能となっている。これらを背景に県産材の出材が促進され、素材生産量が県全体では平成 22 年度の 50 千 m³ から令和元年度には 109 千 m³ と 118% 増となった。 また、素材生産量の増加に伴い、木造公共建築物の着工棟数も増加し、県全体の木造率が平成 22 年度の 5.9% から令和元年度には 23.5% となるなど、木材利用の意識の醸成が進んでいる。
⑥ 今後の課題等	・森林の有する公益的機能の維持増進を図るとともに、木材を安定的に供給するため、引き続き、森林経営計画等に基づく適切な森林整備及びその実施に必要な路網整備を推進する必要がある。 ・スギを主体とした豊富な森林資源が本格的な収穫期を迎えていることから、計画的な伐採と再造林により、「伐って、使って、植えて、育てる」森林資源の循環利用の取り組みを推進する必要がある。 地元の意見： （富山県） 森林整備事業の実施により水源涵養や山地保全等の公益的機能の発揮に寄与している。今後も、効率的な木材の生産に必要な林業基盤整備や人材の育成・確保、需要に応じた素材を適時適切に供給できる仕組みなど、川上から川下に至る関係者の連携・協力による安定供給体制の整備を図っていく。

評価結果	必要性： 間伐等の森林整備を通じて、森林の有する公益的機能の発揮が図られ、地域における水源地や、土砂の流出防止等に重要な役割を果たしており、事業の必要性が認められる。 効率性： 森林整備を推進するため、路網を効果的に配置することにより、事業箇所へのアクセス向上が図られた結果、低コストで整備が可能となり、費用便益分析の結果からも効率性が認められる。 有効性： 森林資源の現況や路網の整備状況を踏まえた計画的な事業の実施により、森林の有する公益的機能が向上し、引き続き、その効果が発現されていることから、事業の有効性が認められる。
-------------	---

※平成 22 年度評価時点における数値については、消費税を含んだ数値である。

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業

都道府県名： 富山県

地域(地区)名： 庄川

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	16,296,799	
	流域貯水便益	4,343,338	
	水質浄化便益	17,727,412	
山地保全便益	土砂流出防止便益	13,295,022	
環境保全便益	炭素固定便益	2,514,024	
木材生産等便益	木材生産確保・増進便益	1,980,711	
森林整備経費縮減便益	森林管理等経費縮減便益	7,543	
	森林整備促進便益	157,933	
総 便 益 (B)		56,322,782	
総 費 用 (C)		9,433,554	
費用便益比	$B \div C = \frac{56,322,782}{9,433,554} = 5.97$		

森林環境保全整備事業 庄川地域（富山県）概要図

